

茶室「孤雲」

寂光院の茶室は、元々京都御所の敷地に建てられたもので、1928年11月、裕仁天皇（死後に昭和天皇として知られた）の即位を祝うために建てられました。6年後に解体され、この場所に移設されました。

千利休（1522～1591年）が設立した日本茶祭の主要な3つの流派の一つである裏千家によって秋の数ヶ月間使用されています。

茶道は、禅宗の影響を強く受けています。「茶の湯」や「茶道」の様式は「お点前」と言われ、香りを楽しむ「香道」や花を飾る「華道」とならび、日本の3大古典芸術と位置付けられています。

この茶室は、小さな池と周囲の森の景色が見えるように配置されています。景色が特にきれいなのは秋の季節で、木の葉の色が変わる頃です。

このシンプルな建物は、1185年に出家した建礼門院が住んでいた住居と非常に類似した設計で建てられていると考えられています。木製のバルコニーに木と紙でできた引き戸である「障子」が付いています。

床は畳じきで、畳の一部が切っており、茶を用意するための「炉」がしまわれています。「床の間」の壁には、季節感あふれる言葉や絵が描かれた巻物が飾られています。